

持続可能な森林経営の 推進を目指して

大分県日田市



日田市の森林



1. 日田市の 森林・林業・木材産業

日田市は北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇、くじゅう山系や英彦山系の山々に囲まれた山間のまちです。

江戸時代、幕府の直轄地「天領」となり、経済的な繁栄を遂げ、商人資本と幕

府の植林奨励策により、スギの植林が盛んに行われたことから、豊富な森林資源を有する地域となりました。

現在、市内には7つの原木市場があり、平日ほぼ毎日どこかで市が開かれています。市内外からの集荷能力は高く、年間取扱量は50万m³を超えます。また、70を超える製材工場は、それぞれが



林間ワサビ圃場

2. 市有林を活用した 取組について

得意とする専門分野に特化した木材を生産・加工しており、「日田市全体でひとつの大きな製材所」と例えられます。また、下駄や家具、クラフト等の木工業も盛んで、「川上」から「川下」まで、多様な関連産業が集積しているのも本市の特徴となっています。

市有林の面積は約1,600haで市内一円に分布しており、人工林率が79%と高く、大半はスギを中心とした経済林です。このうち10齢級以上の人工林は5割を超えており、適切な資源循環が行われていない森林等が散在するなど、市有林の維持管理に課題もあります。



市有林を活用した低コスト施業モデル林
(伐採から造林までの一貫作業と低密度植栽の実証)

こうした中、市有林を様々なテーマを持ったモデル林と位置づけ、スギ・ヒノキの木材生産の場だけでなく、様々な産物の生産地として活用することを目的に、平成25年度から、間伐した市有林を林間ワサビの圃場として整備し生産者に貸し出す事業に取り組み、現在、17の個人や事業者へ計3.35haを貸し出しています。

さらに、平成28年度からは、偏った樹種及び齢級構成の平準化に先導的に取り組み、植栽や保育作業など安定的な雇用の創出を促すことを目的として、年間約10haの主伐を5ヶ年計画で進め、低コスト施業や早生樹種のバイオマス利用などのモデル林として整備を進めています。

初年度は、5箇所モデル林の整備を行い、このうち、2箇所は低コスト施

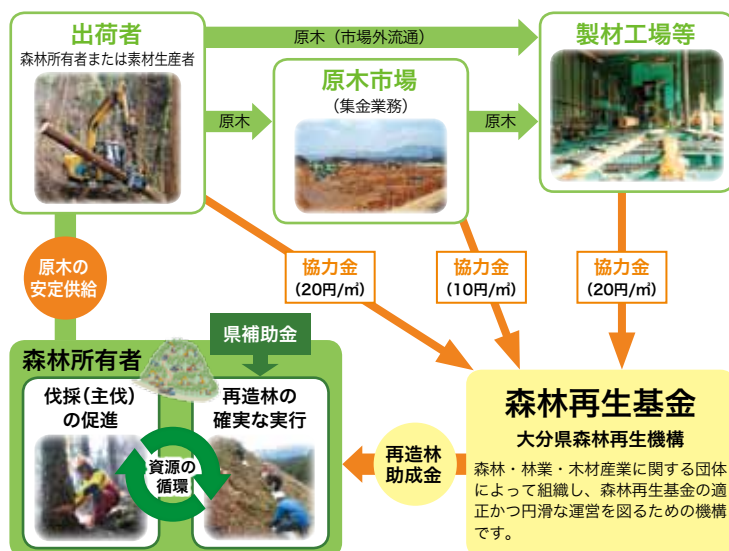


高性能林業機械による間伐

(別表) 森林整備事業への市独自の上乗せ助成

区 分		国	県	県 (上乗)	市	森林再生 基金	計
植 栽 (再造林)	低コスト (疎植)	51 %	17 %	15%	10%	7% 程度	100%
	広葉樹 2割を含む			5%	10%	5% 程度	88%
	広葉樹のみ			5%	15%		88%
除間伐	切 捨			5%	13%		86%
	搬 出			—	0～13%		68～81%
下刈(1～5年生)				—	27%		95%
シカネット				5%	22%		95%
路 網	森林作業道			—	8%		76%

※ 6年生を対象とした下刈りの定額補助 100千円/ha(市)



森林再生基金の仕組み

業をテーマとする、伐採から造林までの一貫作業と低密度植栽及び下刈り方法の実証の場としました。今後、生存率や樹高調査により検証を行っていくことにしています。

また、近年、国内で森林認証を取得する動きが活発化する中、大分県と本市を含む県内4市、7森林組合等で構成する大分森林認証協議会において、今年3月に県営林や市有林等の県内約2万haの森林でSGEC認証を取得しました。

今後市有林をモデル林として活用し、その成果が私有林の森林づくりに

つながるよう取り組んでいきたいと思っています。

3. 森林整備事業への独自の上乗せ助成について

健全な森林づくりをすすめる、森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、国・県の森林整備事業等による再造林や除間伐、路網整備等を対象に市の補助金を上乗せし、森林所有者の負担軽減を図っています(別表)。

特に、伐採後の再造林についての支援を厚くして主伐・再造林を推進しており、大分県森林再生機構が積み立てた森林再生基金による助成と併せて、標準的な事業地であれば、シカ害対策のネット設置や下刈りを行っても所有者の負担はごくわずかとなる支援内容となっています。

4. 担い手の確保・育成について

少子高齢化等により労働人口の減少が予想される中、本市においても、林業の担い手の確保・育成は重要な課題となっています。

そのため、林業退職者共済や中小企業退職者共済の掛け金への助成(掛け金の3分の1以内)などによる福利厚生充実や、林業への就業を目指す1年間の研修制度「おおいた林業アカデミー」の受講者に対する交通費の助成(1,000円/日)といった市独自の支援により、林業の担い手確保に努めています。

5. おわりに

市では、地域の豊富な森林資源から得られる利益を最大化するとともに適正に配分し、山元へ還元することで林業地「日田」の更なる発展を目指し、大径材の利用促進や再造林の低コスト化、家具など高付加価値商品への活用などに取り組むこととしています。

これからの支援策により、平成28年度は再造林が160ha、間伐が585ha実施されるなど、私有林において公益的機能の発揮に向けた森林整備が進みました。

今後、地域での林業・木材産業関係者と一しょに、「林業・木材産業の集積地「日田」における木材の総合利用の推進」の実現を目指していきます。

※この度の豪雨により被災された方々に対して、心より深くお見舞い申し上げます。1日も早い復旧・復興に向け、林野庁としても全力で取り組んでまいります。

日田市林業振興課 Facebookでも情報発信をしています!

